身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…

8 越冬キチョウのひとりごと

▲キチョウの越冬

凍てつく寒さが続く冬のある日、庭の陽だまりで黄色のチョウを見ました。このキチョウのように成虫で越冬し、暖かい日には飛んでいるチョウもいるのです。

おや、キチョウのマダムがなにかつぶやいているようですよ。

「私たちキチョウはねえ。秋の遅くにはもう枯草の中に潜ってますの。羽を畳んでじっとしたまま、雪が積もってもひたすら春を待つんです。アゲハさんなんか蛹の固い殻で寒さ対策はバッチリだし、ミドリシジミさんも卵でぬくぬく寝てるんですからさぞかしお気楽でしょうね。こちらは着のみ着のままで我慢の毎日なのに。おお、さぶっ！…」

そう言っていたキチョウは3月末頃にほかのチョウより一足早く飛びだします。速攻で交尾を済ませて卵を産み始めるその頃、アゲハチョウは蛹、ミドリシジミも卵のままです。キチョウがほかのチョウより早くスタートが切れたのは成虫のままで寒い冬を乗り切ったごほうびでしょうね。

ほかにもシータテハなどの成虫越冬組は、羽が破れてしみだらけになり見た目もカッコ悪くなっています。でも、きっとそれを差し引いても苦労をした甲斐があるのでしょう。苦しんだ分だけその後に待っている喜びが大きいのは人間界でも同じかも。

次回は、よりにもよって冬にだけ活動する変わった蛾を紹介します。

元金小校長、昆虫教室（町教育委員会主催）講師　鈴木健司さん

さくらっきー♡

大そうじ
おしの　ともこ作

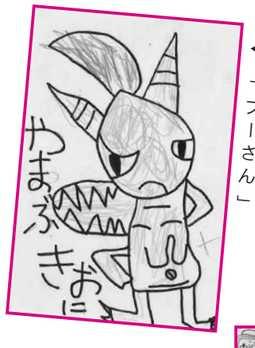
大河原町観光物産協会HP上で連載中
http://www.oogawara.com

毎月6人に500円の図書カードをプレゼント！

だれでもイラストレーター

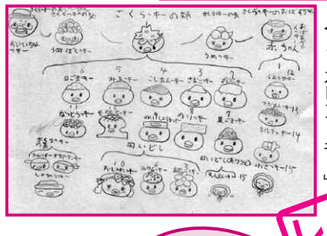
もうすぐ冬休み。じっくり仕上げた自信作の投稿を待ってます

◀「たか」



◀「プーさん」

◀「まり」



◀「カレンッキー」

◀「匿名希望」

◀「匿名希望」

ヘルスメイト大河原の ベジfull キッチン

野菜たっぷり簡単レシピ

野菜のオムレツ

【材料（4人分）】（写真も4人分）
ジャガイモ150グラム、ピーマン60グラム、タマネギ100グラム、鶏ひき肉50グラム、オリーブ油大さじ1、卵3個、塩・コショウ少々

【作りかた】
①ジャガイモは皮をむき5ミリ角くらいの拍子木切りにする。
②ピーマンとタマネギはみじん切りにする。
③フライパンにオリーブ油を引いて①と②を入れていため、ジャガイモとタマネギがすき通るくらいになったら鶏ひき肉を加えていためる。
④ボウルに卵を割り入れ塩・コショウをしてかき混ぜ、③に回し入れる。半熟になったら火を止め、ふたをして、余熱で蒸して出来上がり。

【データ（1人分）】
エネルギー／147キロカロリー
塩分／0・2グラム

レシピ担当
小野　友歌さん（上町1区）
子どもが苦手なピーマンも喜んで食べてくれる、短時間で簡単にできる一品です。野菜のうま味で塩分控えめでもおいしくいただけます。

平成26年度大河原町食育スローガン「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

えずこホール・わくわく・シアター・こちむ アートの種まき

英国地域劇場事情～イギリスの地域劇場リポート

＃4 ウェスト・ヨークシャー・プレイハウス（WYP）【2】

ファースト・フロアというニート向けのプログラムがあります。11～19歳（一般）、14～25歳（学習障がい者）を対象に、音楽、ドラマ、美術ほか10の活動が日替わりで用意されています。このプログラムの優れたところは「大学の受験資格を取得できる」ことで、学校に行っていない若者たちをアートで元気づけ、彼らに社会への道筋を作っていくことができるのです。

場所はWYP近くのビルの2階。部屋は3つのスペースに区切られ、取り払うと大きなスペースが出来上がります。また、仕切り壁はホワイトボードで作られていてさまざまに活用できます。壁には子どもたちに向けて「これから何したい？」「ファースト・フロアは君にとってどんな感じ？」など書かれたシート（写真）が張ってあり、それに子どもたちが感想を書いた付箋がたくさん。「ほっとした」という付箋が目に付きました。

ドラマのセッションを見学しました。二人の女の子が背中合わせでセリフをそれぞれしゃべり、体勢を入れ替え90度に並んでまたそれぞれしゃべる。そしてまた角度と向きを変えセリフをしゃべる。セリフはよくわかりませんが、二人の位置の変化から、うまくコミュニケーションできない二人が少しずつコミュニケーションできるようになっていく過程を描いていると推測され、わけもなく胸が締め付けられ目頭が熱くなりました。

問えずこホール☎52-3004 URL http://www.ezuko.com

わがまち文芸道場

つかの間の峡の日が吐く冬の蝶　カツオ
韓国の子々孫々に冬桜　啓子
山茶花や石に戻らむ磨崖佛　せつ子
風立ちて何の水輪や木守柿　智賀
罪深き心を覆ふ冬帽子　裕子
黄落の褥に埋もる磨崖仏　房枝
冬蝶は一頭はぐれ墓にちる　芳子
裂け石のすき間より生る冬の声　三山

【逢河俳句会】

野菊咲く師の句碑を訪ひ両の掌をひたと触るれば温もりてゆく　星和貴
小松菜とサニーレタスをやり取りし畑の隣人と触れ合ふ朝　加藤倫子
寒さへと向ひて咲ける花ゆれてうす紅色の一ひらの散る　大友道子
飾りたるサルトリイバラの紅き実は晩秋の窓に貼り絵となりて　菅野美榮子
剪定の鋏みは魔術師荒れし庭を神坐す庭へと変えてゆきたり　水戸彦次
幼さの中にきらめく感性を子どもらの短歌俳句川柳展に見き　水戸玲子
秋の日の紫苑のもとに母思ふその名と色をわれも好みぬ　小成田紀代子
東海より古里の地名聞いて来し幼き日の友住みしを恋いて　小成田忠雄
文化祭多芸多才の人あまた我は一芸のみ才伴はず　丸山ひさ子
初任地は全て津波にさらわれて鎮魂の碑にうつむきて立つ　小原チハル
塩辛は子供の頃から好みにて秋深まれば烏賊求め来ぬ　本木定子
瘤としわに年月と幸を封じ込め秋の老桜影あざやかに　菅井加寿子
亡き義兄の別れと想う秋の虹野辺の送りにしばらく仰ぐ　髙城和子
教職に在りし日訪いし家々を車窓より見つつなつかしみ過ぐ　加藤てる
かやの樹にリス来て餌はむ動きみて嫁と朝茶のひと時楽しむ　佐藤睦子
早起きしさ庭めぐりてつわぶきの黄の色にあう心さやかに　佐藤昭子
趣味もまた生き抜く技よ町民の持ち味光る文化祭場　小原啓作

【大河原短歌会】